

こえ  
聲

# 私のいいたいこと



平野 義孝さん  
(祖母井)

## 未来のまち

30年前、小学生の私はLRT事業計画を知り、宇都宮まで乗って通学したり、遊びに行けたりする未来に期待を膨らませていました。

しかし現状、芳賀町民にとっては停留所までの距離が遠く、利用しにくい状況にあります。そのため通勤・通学の利便性は十分とは言えず、自家用車への依存も続いています。これは南北を結ぶ真岡鉄道のように、町民にとっては中途半端な事業にとどまっていると言わざるを得ません。

採算性は低いとは思いますが、交通弱者のための安心安全な移動手段の確保、地域への定住促進、公平な公共サービスを目指すためにも路線の延伸は必要不可欠です。延伸により町民がアクセスしやすい交通網を整え、30年後、私がかつてワクワクした理想のまちが実現していることを期待します。



正田 大輔さん  
(ハツ木)

## LRT時代の通学課題：自律的移動が育む「生きる力」とまちの全体最適

ハツ木の丘育成会でも、中学生の長距離通学は教育環境や健やかな成長に直結する切実な課題です。

これまでの経費膨張の歴史を踏まえ、スクールバスの単独導入が困難なことは十分に理解しています。だからこそ、LRT開業という芳賀町の歴史的転換を生かし、町の将来ビジョンに呼応する形で、公共交通網に「希望すれば公共交通で通学できる仕組み」を位置づけ、需要を町全体で吸収する「全体最適」が進むことを願っています。

公共交通による「自律的移動」の経験は、子どもに「一人で行動できる」という自己効力感を与え、通学の枠を超えて将来の活動範囲をも広げます。誰もが多様な場所へ移動できる環境が生まれ、芳賀町の未来を担う子どもたちのたくましい「生きる力」と社会性を育むと期待しています。



板橋 由紀子さん  
(西水沼)

## 更生保護女性会について

私は、更生保護女性会に入会して17年になります。聞いたことがないという人も多いと思いますが、概要は「国の更生保護事業に協力し、次世代を担う青少年の健全育成に努めるとともに、あやまちを犯した人たちの立ち直りを支援するボランティア団体」です。今、特に力を入れている活動が、町と社会福祉協議会と、地域の人たちの支援もいただきながら、くれよん食堂(こども食堂)を月に一回農業者トレーニングセンターにて開催していることです。こんな女性たちの集まりですが、ちょっと高齢化もしているので、それぞれが体調や都合に合わせ、できる人が、できることをする。無理はせず、一番は自分を大切に、楽しくボランティアをする。そんな組織なので、ぜひ興味のある方は、入会していただけたら嬉しいです。